

謬妄可笑、後人從之非是、

〔書言字考節用集六生植〕柴胡アヤカタ 柴胡サイコ

〔藻鹽草八〕和名少々 茈胡のくさ、又

〔重修本草綱目啓蒙八草〕柴胡ア。マ。ア。カ。ナ。古名 ノゼリ。同上

今ハ通名 一名蘆頭豹子録耕

山芹村家

鎌倉柴胡真ナリ、即集解ニ竹葉韭葉ト云モノ是ナリ、春未ダ臺立ザル時地ニ叢生スル、葉ハ細長

シ、コレヲ韭葉トシ、臺タチテ後ハ葉短シ、コレヲ竹葉トス、二物アルニ非ズト、炮炙全書ニ云ヘリ、

然レドモ今國ニヨリテ濶葉ノ者一種アリ、是竹葉柴似ナリ、其尋常ノ者ハ韭葉柴胡ナリ、今ハ鎌

倉ヨリ柴胡ヲ出ザレドモ、ソノ初鎌倉ヨリ出セシ故、舊ニ仍テ今モ鎌倉柴胡ト稱ス、今藥肆ニ鎌

倉柴胡ト稱スルモノ偽雜多シ、用ユルニ堪ヘズ、ミシマ柴胡ト呼ブモノ佳ナリ、柴胡ハ京師四邊

ニ産セズ、勢州、紀州、中國、四國、九州、ソノ餘諸州ニ生ズ、葉ハ麥門冬葉ニ似テ短クウスク、莖條多シ、

又稍濶クシテ筲竹葉チマキザニ似タル者アリ、皆莖ニ紫條アリ、秋ニ至テ長サ二三尺、葉互生ス、形漸ク短

小ニナリ、葉間ゴトニ枝又ヲ分チ小花ヲ開ク、攢簇スルゴト、芹ノ花ノ如ク、黃色ニシテ、茴香花ノ

形ノ如シ、實モ茴香ニ似テ小シ、此實ヲマキテ生ジ易シ、又城州白川山ニ大葉ナルモノ一種アリ、

大柴胡ト呼、又ホタルサウ同名トモ云フ、葉最大ニシテ紫萼ギボウシ葉ノ如ク、長サ一尺餘、濶サ二三寸、秋

ニ至リ粗莖ヲ起シ、高サ六七尺、枝ノ末ゴトニ花ヲ開ク、花實亦相同シテ微大ナリ、是集解ニ謂ユ

ル南柴胡ニシテ最下品ナリ、舶來ノ者ハ唐ノ筆防風ノ形ノ如ク、蘆頭ニ毛アリ、今ハ稀ナリ、和ハ

單蘆ニシテ細長ク、澀味ナキモノヲ真トス、今藥舖ニ鎌倉柴胡ト稱スルモノハ、薩州肥後邊ヨリ

出ス、數蘆連生シ、澀味アルモノヲ雜ユ、是南柴胡根ニシテ下品ナリ、三島柴胡ト稱スルモノハ東

國ヨリ出ス、此ニハ單蘆ナルモノ多シ、藥用ニ入ルベシ、